

都市の 3D デジタルマップの実装に向けた産学官ワーキンググループ（第 1 回） 議事要旨

日時：令和 2 年 12 月 1 日（火） 17 時 30 分～19 時 00 分

場所：オンライン開催

<WGでの主な意見>

- ・先行事例としてヘルシンキとシンガポールがあるが、東京都の目指す方向性としてはヘルシンキがイメージとしては近い。
- ・データ公開では、標準化（CityGML 等）とデファクトスタンダード（DXF 等）の流れがある中で、どこに落とし込んでいくかを検討する必要がある。
- ・より詳細な情報を扱えるようになってきているため、データ取得の仕方、その後の手当の仕方などプライバシー侵害や遵法性について注意していく必要がある。
- ・建物の構造や建物全体イメージだけでも個人の資力が概ねわかるため、このようなユースケースについても注意が必要。
- ・サステナブルに運用できる仕組みについて検討することが重要。
- ・都の既存事業でかかる費用も含めた中で、どこまでを民間データで賄うのか、どこまでをオープン化していくのかを詰めていくことが必要。
- ・国交省都市局では、全国 50 都市で 3D 都市モデルの整備や利活用、オープン化を検討しており、今回の取り組みと連携して進められると良い。

<議論のまとめ>

- ・第 1 回 WG の意見を踏まえ、次回以降、具体的なデータ仕様、整備・更新スキームなど議論していく。
- ・アンケート調査を別途予定しており、3D デジタルマップへの期待、利用にあたってのインセンティブや制約事項等を整理予定。本 WG の中でも参考にしていく。